

♪ 鳥大附小 研究コーナー ♪

今年度、「未来へつなぐ教科・領域の授業づくり」という研究主題に迫るために、「国語科という教科独自の特徴とは何か」「算数の学び方の特徴とは何か」といったことを、それぞれの授業づくりを通して明らかにしていこうとする研究を進めてきました。

例えば、国語と英語では、どちらも“言語”を対象とした学びであることは明らかなです。しかし、その学び方や獲得の仕方に違いがあると言えます。今年度、国語科では、「多くの語彙や多様な表現を獲得したり友達と交流したりすることで“言葉の力”を広げ、自分の思いや考えを深めていく」学び方、外国語活動・外国語科では、「単に語彙や文法などの知識・技能を身につけるだけではなく、実際のコミュニケーションで活用されるようにコミュニケーションの体験を重ね、実感を伴って言葉を獲得する」学び方に特徴があると捉えて研究を進めました。

1月25日に行った研究授業から



【国語科（1年）『じゃんけんやさん』をひらこう！】

友達との交流を通して、友達が作った新しい「じゃんけん」の題材に興味をもつ子供たちの姿を見ることができました。しかし、今回は「じゃんけん」をテーマに言葉を広げるといふねらいだったので、子供に着目させたいポイントも「じゃんけん」だからできるものにある程度絞ったほうが、言葉を広げるのには有効ではないかということが見えてきました。

【外国語活動（2年）「色と形であそぼう」】

新しく学ぶフレーズの中で「コミュニケーションポイント」の1つである「アイコンタクト」を意識しながら会話するのは難しいようでした。しかし、自国の話をされるシサイ先生の言葉に目を輝かせながら耳を傾ける子供たちの姿から、外国語の背景にある文化や風習も含めて理解していくところに実感を伴った言葉の獲得が期待されることが見えてきました。



今年度、各教科・領域ごとに研究テーマを設定し、それに向けて共同研究者に相談したり助言をもらったりしながら実践・研究を進めてきました。それぞれの教科・領域で獲得する力は、将来「予測困難な社会」を生きていく子供たちが、状況に応じて柔軟に対応できる力の基礎となります。「それぞれの教科・領域からこそ学べること」をいかににより充実した学びとするかということを、引き続き研究していきます。

来年度も、保護者のみなさまには、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（研究主任 多内京子）

◆□◆ 「キャリアに拓く」を通して ◆□◆



来年度の実施をよりよいものにしていくために、3年以上にアンケートを実施しました。本事業が、子供たちの心を大きく揺り動かしていることが伝わってきました。将来の夢や進路を考えるのに役立ったというだけに留まらず、普段の生活の中での考え方、仕事に向かう姿勢、生き方まで真剣に考えるきっかけになった子供もいたようです。



- *本当に自分がやりたいものに向かって未来を築くことが大切。
- *くじけずに努力する跡を残し、いろいろなことを乗り越えることが大切。
- *どんなことでも責任をもつことが大切。
- *仕事に誇りや熱意、やり甲斐をもって取り組んでおられるのが心に残った。
- *将来を真剣に考えるようになった。
- *感謝する気持ちをもつようになった。
- *思いやりをもって生きることによって行動が変わってくることを学んだ。

